

地域の枠を越えた、世界標準の新たな大学機能の強化を目指します ～仮想「国立「国際資源」大学」～

秋田大学 国際資源学部 (平成26年度新設予定)
国際的資源学に特化した学部創設を通じ、実現する3大改革

① 資源グローバル人材の養成

世界的教育拠点形成

日本を代表する世界水準の
資源学教育拠点の構築

国益貢献

我が国の資源確保戦略に貢献する人材の供給

10年先, 50年先, 100年先を見据え, 単なる資金による資源開発権益の獲得とは一線を画す, 人脈と資源人材ネットワークによる代替不可能な日本の財産となる

産業界からの要望

- ・交渉力・コミュニケーション能力
- ・複文化的視点で世界を見る目
- ・地球資源を資源学の観点から俯瞰できる力を身につけた第一級の技術者育成
- ・制度・慣習・言語・文化・宗教等を異にする人々, 企業, 地域間の橋渡しをする人材の育成

資源政策コース(仮)

国際資源学科

資源地球
科学コース(仮)

資源開発
環境コース(仮)

② 次世代型の学部運営

大学間連携

外部人員を取り入れた意思決定の透明化

教授会改革

運営と執行を分離し, 教育研究活動の特化によりその質の向上を図る

ダイナミックで機動的な意思決定を可能とする, 開かれた学部運営の仕組みの構築

連携運営パネル

学部運営方針の決定

学部運営Council

- ・組織の設置廃止
- ・予算
- ・運営に関する規程
- ・運営の重要事項

資源系企業・政府機関からの学外委員,
連携大学の教員, 学部代表教員

教育研究Council

- ・教育課程の編成
- ・教員の採用, 昇任等
- ・教育研究に関する規程
- ・教育研究の重要事項

資源系企業・政府機関からの学外委員,
連携大学の教員, 学部代表教員

学生の教学面

教授会

・学生に関すること
(入学, 卒業学位, 試験, 厚生補導等)

③ 秋田大学が担う 公共的役割の機能強化

国立大学の果たすべき公共的役割に依っていくため, 個性・特色を明確にし機能強化を推進

ナショナルセンター機能強化

- ◆世界標準に向けた教育水準の高度化
 - ・国際的な資源学教育コースの設置
- ◆グローバルな学習・教育環境
 - ・実体験に基づいた価値判断能力を培う

国際的教育研究のネットワークの一員として世界に貢献 → 世界の持続的発展に寄与

リージョナルセンター機能強化

- ◆地域の発展を担うリーダーの育成
 - ・主体的で柔軟な発想のできるリーダー育成 “きたまえ塾”
- ◆地域文化と技術の掘り起こし, 集約, 発信の拠点
 - ・技術や知識の刷新・創出
 - ・芸術・民俗文化, 保存, 継承
 - ・地域の生涯学習拠点

地域振興の中核拠点として貢献
→ 地域の産業振興と発展の基盤を形成

秋田大学 資源学分野の優位性

- ◆1910年創立の官立秋田鉱山専門学校からの100年の歴史・蓄積
- ◆『資源分野の大学間連携』の推進【文科省:資源GP(H20~H21)採択】
- ◆海外大学との学術交流の環境整備【国際資源学教育研究センター(H21設置)】

専門技術, 国内外の人脈の蓄積を礎に, 「資源探査・開発 → 環境リサイクル」まで一貫して学べ, 国内外の資源学教育研究拠点と成り得る大学は, 我が国では秋田大学以外にない

東京電力福島第一原子力発電所事故を契機として...

放射性物質の放出により、低線量被ばくによる**長期的な自然界への影響**が懸念されている！

動態と影響の解明

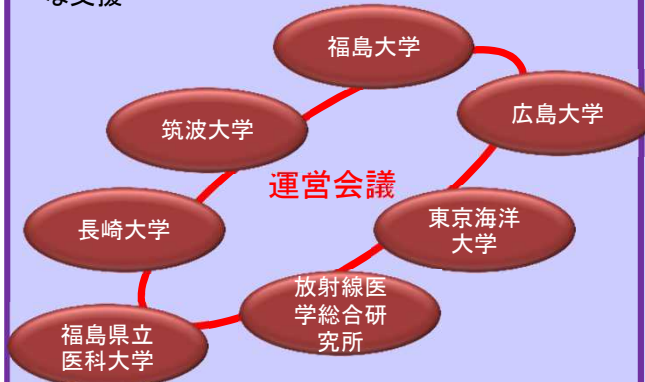
福島大学 環境放射能研究所 の新設

設置目的

世界の研究機関と連携し、温帯多雨地域における環境への放射性物質による長期的な影響の調査・研究を行い、環境放射能動態を解明する。

オールジャパンによる 研究所の運営

放射能研究に識見のある連携研究機関の協力に基づく運営と関連学術コミュニティからの強力な支援



国際放射生態学連合(IUR)、日本水産学会、日本地質学会、日本気象学会、大気環境学会 など

開かれた 組織と研究スタッフ

所長

運営会議

副所長

アドバイザリーボード

国内外の研究者からの幅広い助言など

放射線基盤科学

放射線環境科学

放射線生態科学

放射線情報科学
(附属アーカイブセンター)

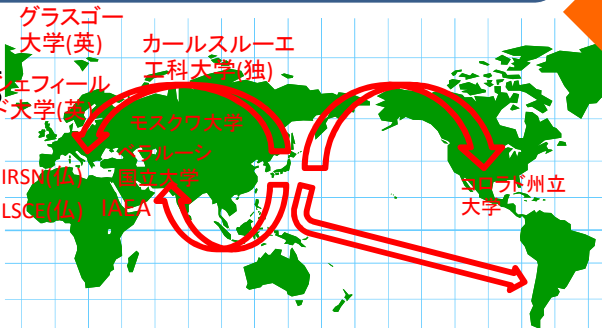
分析室

- 常勤研究員
- 特任研究員 (非常勤)
- 公募研究員 (中期・短期)
- 技術支援等スタッフ

【連携協定締結機関】

広島大学・長崎大学・ベラルーシ大学・放射線医学総合研究所・日本原子力研究開発機構

協力



国内外の大学・研究機関・研究者の共同利用に供する

期待される効果

主な事業

- 環境中の放射性物質の長期的動態調査
- 環境中の放射線や放射性物質を測定するための測定原理などの技術開発
- 環境中の放射線物質が食物連鎖を通じて動物に移行するメカニズムの解明
- 放射性核種が気象現象等により存在形態が変化し移行するメカニズムの解明
- 環境復旧対策支援にかかるシンクタンク機能
- 資料・試料の保管と研究手法及び研究対象物のアーカイブ

学々連携協力と異分野の融合による
学術研究の新たな展開と体系化